

オオヒシクイに根元食で採食された植物種の訂正

渡辺朝一

水戸市元山町 2-2-33-202

越後平野福島潟 (37°54'N, 139°15'E) 周辺には、毎冬ガンの一種であるオオヒシクイ *Anser fabalis middendorffi* が多数飛来し、越冬する。これらのオオヒシクイは、イネ *Oryza sativa* L. の刈り入れが終了した水田で、イネの切り株から萌芽成長した再生稈の基部を採食したり、潟内でマコモ *Zizania latifolia* L. の地下茎を採食したりしている。イネの再生稈の基部に対する採食行動は、千葉ほか (1993) によって初めて報告されたものであり、筆者も、福島潟周辺におけるイネとイネ以外の植物に対する同様の根元食に関し、実際の採食行動と記録された植物種に関して 2002 年に Strix 誌上にて報告した (渡辺 2002)。

この報告で、オオヒシクイによるアブラナ科タネツケバナ属のタネツケバナ *Cardamine flexuosa* With. に対する根元食の観察例として発表した記録は、掲載した写真から同属のオオバタネツケバナ *C. scutata* Thunb. の可能性も考えられることがわかったため、タネツケバナ属に対してのものと訂正する。この採食を観察したのは 1994 年 1 月 15 日である。豊栄市内沼沖集落に近い水田地帯で採食していたオオヒシクイ 70 羽前後の群れが飛去した後、食痕を検分したところ、根元部分が採食され上の部分が食べ残されたタネツケバナ属

が発見された (図 1)。このような採食痕は、オオヒシクイでよく見られる特徴的なものであり、オオヒシクイによって根元部分が採食されたことを示す。この記録を、かつてタネツケバナに対する採食として発表した (渡辺 2002)。しかし、写真にはオオバタネツケバナの特徴である大きな頂小葉がみられ、この写真の植物はオオバタネツケバナである可能性がある。しかし、種を識別できるような全体を写した写真もなく、オオバタネツケバナと断定することも、タネツケバナと断定することもできないため、この記録をタネツケバナ属に対するものとして訂正する。

オオバタネツケバナは、アブラナ科タネツケバナ属に属する草本植物である。同属のタネツケバナは、越後平野一帯でも稲刈り後の水田に多く (渡辺 2009)、ガン・ハクチョウ類に多く採食される草本の一つである。

新潟県下の植物種の分布を集積した新潟県植物分布図集では、オオバタネツケバナはヤマタネツケバナ、コシジタネツケバナ *C. scutata* var. *koshinensis* として記載され、沢筋や湿地などにみられるとされており (戸田 1993a, b)、水田地帯での分布は知られていなかった。しかし、2007 年 3 月の筆者の調査で、水田地帯にも本種が分布する

2011 年 1 月 12 日 受理

キーワード：オオヒシクイ、タネツケバナ属、根元食



図 1. オオヒシクイに根元部分を採食されたタネツケバナ属

Fig. 1. *Cardamine* sp. the lower parts of which were eaten by the Middendorff's Bean Goose

ことが確認された（渡辺 2008）。そこで、一度タネツケバナとして発表した記録も、あらためてオオバタネツケバナである可能性も考えられるため、タネツケバナ属として訂正することとした。

写真からオオバタネツケバナの存在をご教示いただいた東北大学理学部の石栗義雄氏、オオバタネツケバナ、タネツケバナ両種の分布状況などをご教示いただいた京都大学生態学センターの工藤洋氏、新潟県におけるタネツケバナ属の状況をご教示いただいた新潟植物資料室の石澤進氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

千葉晃・高辻洋・山本明・本間隆平. 1993. 新潟県

に飛来するヒシクイとその越冬生活. 第6次鳥獣保護事業計画鳥獣保護対策調査報告書 I, 新潟県, 新潟.

戸田明. 1993a. ヤマタネツケバナ. 新潟県植物分布図集第14集: 31-33, 植物同好じねんじょ会, 小千谷.

戸田明. 1993b. コシジタネツケバナ. 新潟県植物分布図集第14集: 35-37, 植物同好じねんじょ会, 小千谷.

渡辺朝一. 2002. 草本類の根元部分を選択的に採食するオオヒシクイの採食行動. Strix20: 131-135.

渡辺朝一. 2008. 新潟県新発田市の水田にオオバタネツケバナの分布. 新潟植物資料室年報2007: 13.

渡辺朝一. 2009. ガン・ハクチョウ類の採食地としての冬期越後平野水田の環境. 新潟県生物教育研究会誌 44: 13-27.

Correction of the herb species foraged by the Middendorff's Bean Goose

Tomokazu Watanabe

Motoyamacho2-2-33-202, Mito- City, 310-0032

In 2002, I wrote a paper on the herb species that the Middendorff's Bean Goose foraged at rice fields around Lake Fukushima, Niigata Prefecture. It turned out, however, that the herb species might be *Cardamine scutata*. In this paper, therefore, I correct the herb species as *Cardamine* sp.

Key words: Middendorff's Bean Goose, *Anser fabalis middendorffi*, *Cardamine* sp., diet